

平成26年 2月

神鳥美智子 学位論文審査要旨

主 査 景 山 誠 二
副主査 清 水 英 治
同 井 上 幸 次

主論文

Relationship between the number of cytomegalovirus in anterior chamber and severity of anterior segment inflammation

(前房内サイトメガロウイルス量と前眼部炎症の重症度との関連)

(著者：神鳥美智子、宮崎大、矢倉慶子、小松直樹、唐下千寿、石倉涼子、井上幸次)

平成25年 Japanese Journal of Ophthalmology 57巻 497頁～502頁

参考論文

1. Efficacy of herpes virus helicase-primase inhibitor, ASP2151, for treating herpes simplex keratitis in mouse model

(単純ヘルペスウイルス角膜炎のマウスモデルにおけるヘルペスウイルスヘリカーゼ - プライマーゼ阻害剤ASP2151の有効性)

(著者：佐々木慎一、宮崎大、春木智子、山本由紀美、神鳥美智子、矢倉慶子、鈴木宏、井上幸次)

平成25年 British Journal of Ophthalmology 97巻 498頁～503頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、サイトメガロウイルス(Cytomegalovirus: CMV)DNAコピー数と前眼部の炎症所見との関連に焦点を当て、免疫能正常者に発生する前眼部CMV感染症の特徴を探索したものである。前眼部炎症のない対照患者にはCMV DNAが検出されず、前眼部炎症とCMVが確認された患者では、CMV DNAコピー数と眼圧上昇、角膜内皮減少などの各種臨床パラメータが相関しており、前眼部炎症疾患へのCMV感染の関与が強く疑われた。これらの結果は、CMV DNAコピー数の評価と臨床所見の把握が、前眼部炎症の診療における重要項目であることを示しており、日常診療にCMV DNAの定量項目の導入を促す根拠ともなる。

本研究は、前眼部炎症の病態形成にCMVが関与することを明確に示し、かつCMV DNAコピー数の判定が眼科診療に重要であることを示唆するものであり、明らかに眼科学領域の学術水準を高めたものと認める。